

[月刊]

キャッチ ピース

月刊トマ喰い虫改題

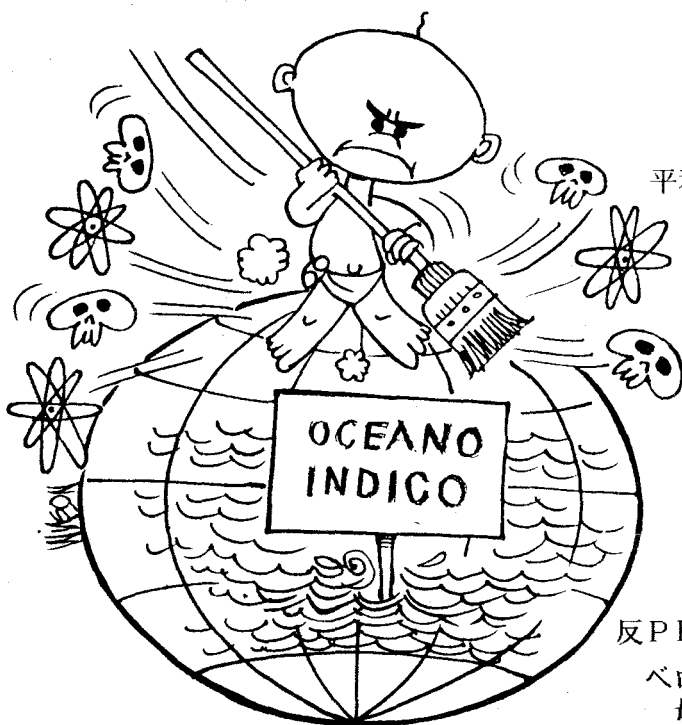
2

通巻第81号

'92.9

定価●100円

自衛隊の海外派兵を食い止め、大幅軍縮を！
米軍基地を撤去しよう！
反核運動を継続し、核廃絶を！
憲法9条を世界に！
市民による平和政策を提起しよう！
草の根の国際共同作業をすすめよう！



9.30 ベローウッド
10.5 佐世保に
オブライエン
横須賀に

平和船団が抗議行動をします！

ZONAS DESNUCLEARIZADAS
DENUCLEARIZED ZONES

カンボジアPKOの
ここが危ない
反PKO・町から…善通寺／京都
ベローウッド、オブライエンの
母港に反対…佐世保／横須賀
長崎の課題
国際非核自治体会議に向けて

★維持会員(月間) ★参加会員(月間) ★通信会員 脱軍備ネットワーク
個人 1口 1000円 個人 1口 500円 年間 キャッチピース
団体 1口 2000円 団体 1口 1000円 3000円
<会費は本紙購読料をふくみます>

あなたも会員・読者に！

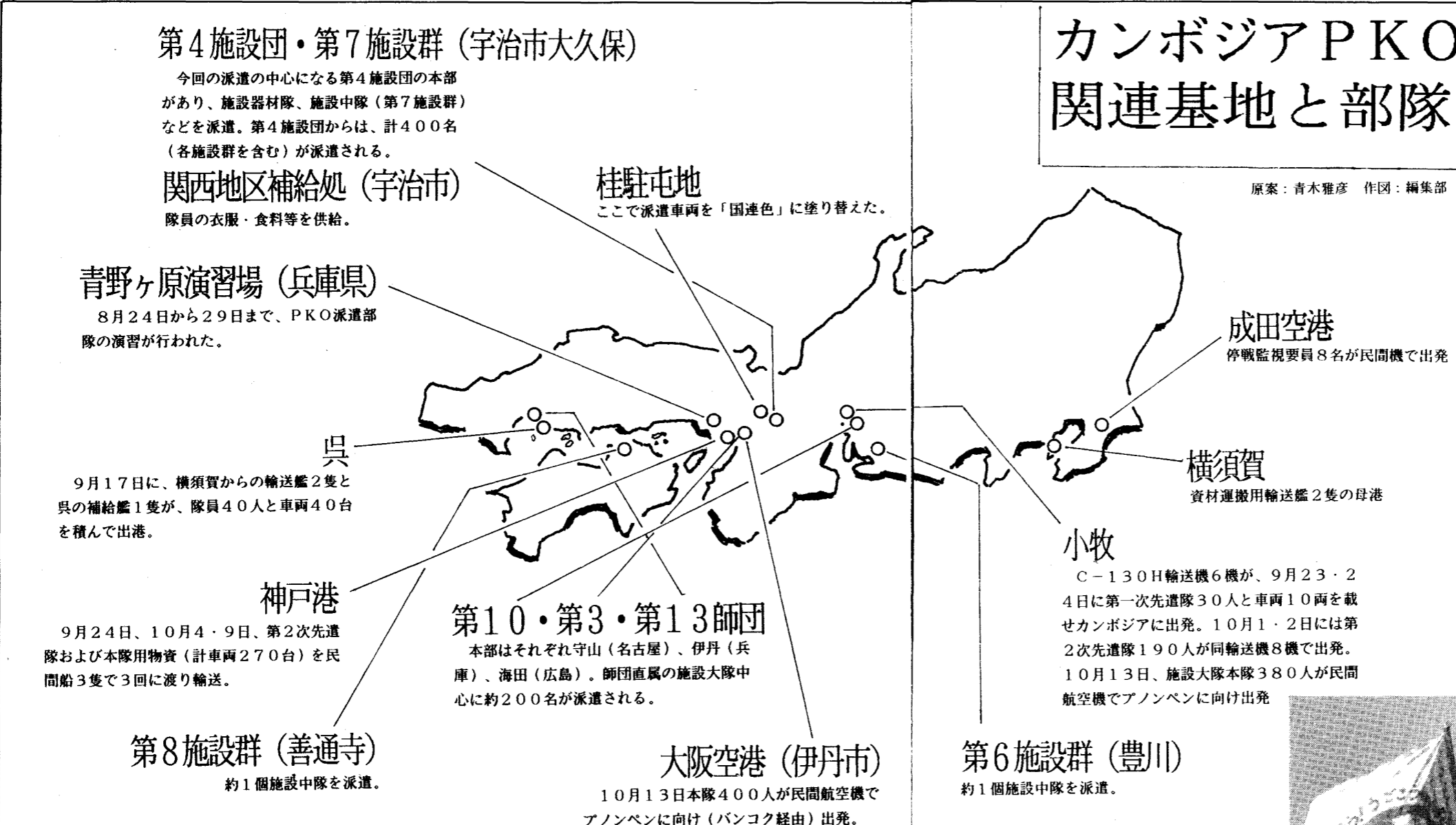
連絡事務所●〒223 横浜市港北区箕輪町3-3-1
TEL 045(563)5101
FAX 045(563)9907
郵便振替●東京6-136148 口座名「キャッチピース」

「PKO法の

ここがあぶない」

カンボジアPKO 関連基地と部隊

原案：青木雅彦 作図：編集部



成田空港
停戦監視要員8名が民間機で出発

横須賀
資材運搬用輸送艦2隻の母港

小牧
C-130H輸送機6機が、9月23・24日に第一次先遣隊30人と車両10両を載せカンボジアに出発。10月1・2日には第二次先遣隊190人が同輸送機8機で出発。10月13日、施設大隊本隊380人が民間航空機でアノンベンに向け出発

第6施設群 (豊川)
約1個施設中隊を派遣。

桂駐屯地
ここで派遣車両を「国連色」に塗り替えた。

関西地区補給処 (宇治市)
隊員の衣服・食料等を供給。

青野ヶ原演習場 (兵庫県)
8月24日から29日まで、PKO派遣部隊の演習が行われた。

呉
9月17日に、横須賀からの輸送艦2隻と呉の補給艦1隻が、隊員40人と車両40台を積んで出港。

神戸港
9月24日、10月4・9日、第2次先遣隊および本隊用物資(計車両270台)を民間船3隻で3回に渡り輸送。

第8施設群 (善通寺)
約1個施設中隊を派遣。

第10・第3・第13師団
本部はそれぞれ守山(名古屋)、伊丹(兵庫)、海田(広島)。師団直属の施設大隊中心に約200名が派遣される。

大阪空港 (伊丹市)
10月13日本隊400人が民間航空機でアノンベンに向け(バンコク経由)出発。



公約違反

「PKO法」の中には、いわゆる「参加五原則」があり「紛争当事者」の合意がなければ、日本は自衛隊を派遣することができないはずだったが、しかしホル・ポト派が武装解除を拒否し続けている状況にも拘らず、政府は「武力紛争の停止及びこれを維持する」という条件は「満たされ」(「PKO実施計画」)ているという解釈を取った。ポト派も「パリ平和協定」に調印しているというのが政府の論理だが、

倒錯

国会でさんざん議論になった「武力行使」(政府は「武器使用」と呼ぶ)を伴うPKF任務だか、「PKO法」に具体的に列挙されている任務以外のことも「政令で定める業務」として行うことが可能になっている(第三条)。憲法の根幹に関わる重大なことを政令や「実施計画」(いずれも政府の一存で制定できる)に委ねるやりかたは自衛隊法も同じだが、国会や国民のチェック機能を全く封じ込めてしまうことにつながる。

民活

今回カンボジアへ自衛隊を派遣するに際しては、車両の約九割、人員の三分の二を民間の輸送船やジャンボ機に頼っている。自衛隊の長距離輸送能力が低いためではあるが、「PKO法」の中にも「任務の提供について国以外の者(民間人)引用者註)に協力を求めることができる」(第二十六条)とあるのは示唆的である。今回はこの条文を根拠にしたというより、「単なる」契約としての行為だが、将来危険な地域への輸送の際にはこの条文がある種の強制力を持つてくるだろう。

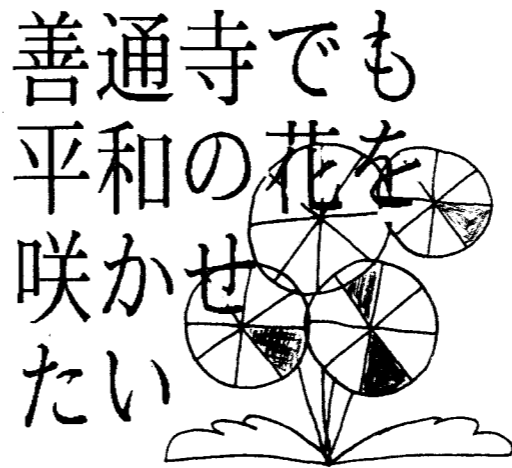
延命策

PKO参加は冷戦崩壊で存在意義を失った自衛隊の「生残り作戦」でもあった。予算と人員の削減に抗する

次ページ下段へ

普通寺は、香川のわりとちっちゃなまちです。そこに、自衛隊、寺、教会、学校、病院などがゆったりと存在しています。それは、第二次大戦中、ここが軍都であったことにも関係があります。大きな自衛隊のトラックがゆったり通れるきれいに整備された道や甚盛の目に区画されたまちは、静かにその過去の重みを訴え続けています。

香川は、保守的であり運動は活発ではないと思われているし、実際そうだと思います。自衛隊出兵に対してあまり大きな動きはありませんでした。若い人や大人たちも無関心を装ったり、実



際そうであったり、そうすることでラクに生きようとしたりする傾向が強かったように思います。

でも、普通寺からも自衛隊がカンボジアに行くということが伝えられてから、重い腰をようやく上げる人たちがでてきました。そして、自分にわかるレベルまでにPKOや自衛隊のこと、国際貢献を引き寄せようと「自衛隊を海外に出したくない普通寺市民の会」が九月六日に結成され、同日夕方に自衛隊に行き「自衛隊を海外にだすな」「そのための準備活動も中止せよ」という申し入れ書を手渡してきました。その間に、中国での日本の残虐行為を真正面から扱った「侵略」という映画の上映会や、香川の朝鮮人強制連行をずっと探っている人の「日本の戦争責任と戦後補償」という講演会もたれ、その後、自由に意見を出し合うことが行われました。

今後、この会では、元自衛官の話をきいたり、歴史や今のアジアの現実をみつめたりする学習活動を「平和をつくる」運動を進めて行きたいと考えています。何かを共有しながら、楽しく元気に、でもしつかりと現実をみつめながら、ここ香川でも、「平和の花」を咲かせるつ

おねだり

「目玉商品」として売り出したい。そのため現在の「中期防衛力整備計画」が終了する五年には、このPKO任務を防衛出動、治安出動と(両者とも「出番」が無くなった)並べて自衛隊の主任務にする(自衛隊法第三条書換え)作戦という(「日経」八月二三日)。

来年の防衛庁予算要求で目務が必要)な大型輸送船(五千五百トン)。これまで最大の自衛隊輸送艦が二千トンだから段違いの性能だ。しかもこれは、ジェーン年鑑が指摘したように、飛行機を買えば空母として使用可能な「攻撃兵器」なのだ。軍縮どころか、PKO参加を奇貨として自衛隊の「弱点」強化を図ろうという意図が見え見えである。

前ページから
「目玉商品」として売り出したい。そのため現在の「中期防衛力整備計画」が終了する五年には、このPKO任務を防衛出動、治安出動と(両者とも「出番」が無くなった)並べて自衛隊の主任務にする(自衛隊法第三条書換え)作戦という(「日経」八月二三日)。

川本京子
自衛隊を海外に出したくない普通寺市民の会



自衛官の心に向き合う 人権ホットライン・京都



カンボジアへの第一次派遣部隊の中軸となる第四施設団の本部、宇治大久保基地をかかえる京都で、九月一日「自衛官人権ホットライン」がスタートしました。すでに、準備段階での事務局への来電も含めて、自衛官や家族、OBなどから約十本の電話が寄せられています。

自衛隊は、私たちにどうして容認できない対象ととらえられてきたことで、二十四万人近い隊員が、この日本で現実な生活をいとなんでいるにもかかわらず、私たちの視野からなかなかに意図的にはずされてきました。自衛隊を否認し解体を求める論理の正当性のおかげで、隊員たちの市

民としての姿が見落とされてきたのだと言えます。

しかし、自衛隊を職場として働く自衛官たちは、当然のことながら、私たちと同様に社会的存在であり、それぞれの地域で住民のひとりとして暮らしています。その存在をめぐる政治的認識のいかに関わらず、自衛官個人が同じ市民であるというあたりまえの事実を、まず受け止める眼を私たちは持つ必要があります。その視点、言いかえれば人間観が、基本にすえられていない政治認識や行動は、必然的に貧しいものにならざるを得なくなるように思います。

今、PKO協立法による海外派遣という、自衛隊法にも想定されていなかった事態をむかえて、自衛官とその家族は、強い不安やとまどいの渦中にあると思われれます。

自衛官人権ホットラインは、そのような自衛官や家族の揺れ動く心に向きあおうとするものです。

実際、カンボジアへ行くことが決まったある中堅自衛官は、死者が出ることを予想しており、自分や家族のことに加えて連れていく部下への責任感にもさいなまれ、苦悩する胸の内を四十分間にわた

って伝えてきました。他の来電の多くも、自衛官本人や家族、OBの違いはあっても、迷いや不安を訴え、政治家への怒りをぶつける内容のものでした。(一般の方からの批判や嫌がらせの電話があったことも付け加えておきます。)

「ホットライン」は、ただし、このような自衛官の声を政治利用する意図を持ちません。僕自信は、もとより派兵を押しとどめたいと願う者ですが、ホットラインの趣旨は次元を異にします。

僕なりに表現してみますと、「国家の原理や軍人としての義務の奥底に横たわっている個の原理や市民としての責務を、掘り起こす共同作業の始まりが、一本の回線にはらまれる可能性がある」ということです。

自衛官たちは銃を携帯させられてカンボジアに送り込まれようとしています。国家の政治が「殺すこと」「殺されること」を強制しようとする時、それを拒否しようする市民の人権を確認する必要があります。そのことの根拠は言うまでもなく、日本国憲法にあります。

◆ ◆ ◆
足立修行
湾岸戦争を問いつづける会

「ペローウッドとオブライエンの入港日が発表された。佐世保のペローウッドは九月三〇日、横須賀のオブライエンは十月五日」
「十月五日って、ミッドウェイの母港日だよね」

「あのとと同じに、僕らは船を出す、というわけだけど、その前に、もう一度それぞれどんな船なのか整理しておこう。まずペローウッド」

「ジェーン年鑑には多目的強襲揚陸艦とある」
「一般には、総合強襲揚陸艦といっているね。三万九三〇〇トン。空母に次ぐ大きさの軍艦だ」

「見てくれも全く空母だね」

「攻撃用ヘリ二〇数機と垂直離発着機ハリアーを積み込んでいる。ヘリ空母と書く記事もあるくらいだ。さらに一八〇〇人の海兵隊員と戦車や装甲車、上陸用舟艇を積み込み、紛争地へ入り込みをかける」

「戦場にダイレクトにつながっている船、というわけか」

「三〇〇床の病床もあるというのだから、なんとも生臭い船だよ」

「佐世保にはすでに三隻の揚陸艦が母港をおいているでしょう」

「その三隻を合わせても、ペローウッドの

敵しかった残暑もやっとなつて峠を越え、どうやら秋らしくなってきました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

「日本の足の裏」と呼ばれている西端の街佐世保から初めてお便りします。この夏の佐世保は、いつもの年とは少し違った...というのがこの街で細々と市民運動が続けてきた私の感想です。

まず、八月十一日、地元の住民を含む十五人が、米軍基地内の大型医療倉庫の立入調査をしました。この医療倉庫は九〇年五月に着工され九二年二月に完成しましたが、その大きさ(とても倉庫などと呼べるようなものではなく、まるで体育館)保管物の中身について、市民から不安や疑念の声が上がり、地元八ヶ町で倉庫建設反対の会を結成し、工事が一時中断したこともありましたが、地元が保管物を確認することを条件に再開されたという経緯があります。「現段階では不安なものはない」ということですが、地元住民が基地内立入調査をしたことは大きな成果だと思えます。

また、八月二十三日には「すすめよう!アジアの軍縮・めざそう!基地のないサセボ」のスローガンのもとピース・フェスタ、92が開催されました。地区労・青婦協を中心に基

トン数にかなわないのだから、この船の大きさがとてもないことがわかる」

「ヨコスカのオブライエンはどんな船なんだろう」

「スプルーアンス級の駆逐艦で、巡航ミサイル・トマホーク発射用の垂直発射装置を搭載している。湾岸戦争で最も多い五八発のトマホークを発射したファイブと同じ型の船だ」

「これで横須賀のトマホーク艦は五隻だね」
「トマホーク艦の海外母港はすべて横須賀

西のペローウッド 東のオブライエン

なぜ、今 2隻の母港なのか?

新倉裕史

非核市民宣言運動ヨコスカ

に集中している。オブライエンをいれて、横須賀の母港艦船は十一隻になってしまっけれど、これは過去最多の数なんだ」

「オブライエンがファイブと同じ型の船なのは、意味があることなんだろうね」

「さっきも言ったけど、ファイブは湾岸戦争で五八発ものトマホークを打ち込んだ。ハitek兵器を投入してのこれからの戦争の一つのパターンを実践して見せたわけだ」

「オブライエンの母港は、これからもこのパターンで行くぞと言う宣言なのか」

「ペローウッドの母港もまったく同じだね。湾岸戦争で佐世保の役割は大きく言っただった。一つは弾薬の中継と積み出し港もう一つが沖縄の海兵隊を佐世保の揚陸艦が運んだ。この機能が桁違いに強化されることになる」

「湾岸戦争を支えた日本列島は、さらにその機能を強化するために、西にペローウッド、東にオブライエンを配備すると...」

「日本政府が金を出して、在日米軍の駐留を支えている。だからこの列島に軍縮の風が吹かない。ここをもっともっとたくさんの人に伝えたいね」

「今が一番軍事が強化されている事実をキチンとね!」

ひと味違った夏のサセボ

市民による基地立ち入り調査が実現。基地ツアー「ピースバスさせば」には一般公募で八〇人が参加した。これが反対運動にどうつながっていくか...

宮野由美子
市民ネットワークさせば

地に隣接した佐世保公園に出店が並び、ステージではジャズ演奏、手品、クイズ等々盛り沢山のイベントでした。私達市民グループにも初めて声が掛かり無農薬野菜の販売や第3世界ショップの物品販売などを行いました。

昨年、湾岸戦争に反対するなかで労組の人たちと一緒に集会やデモをやる機会が増えてはいたのですが、市民グループでも集会やデモに参加しない、もう一歩外側にいる人たちが実行委の中に入ってきてくれたのは収穫だったと思えます。

そして、八月三〇日「ピース・バスさせば」を運行しました。私達は四年前から「夏の一日、平和について考えてみませんか」をキャッチフレーズに絵画展や写真展などを行ってきましたが、今年は佐世保の歴史を振り返るとともに、強化拡充されている基地の様子を知ろうと計画したのです。新聞やミニコミ誌

で公募した八十名が参加、バス二台で戦跡や米軍弾薬庫を巡りました。基地の街に住みながら基地を知らず、危険と隣合わせで生活していることを初めて知ったという参加者も多かったようです。

さて、いよいよ九月三〇日ペローウッドが配備になりますが佐世保の街はいつもと変わらないように見えます。しかし、この夏のひと味違った催しが、これからの反対運動にどうつながっていくのか、私は現在、不安と期待のいり交じった気持ちでペローウッド入港の時を待っています。



原子力艦 入港情報

(47)

1992年8月16日～9月15日

P級=原子力潜水艦パーミット級
S級=原子力潜水艦スタージョン級
L級=原子力潜水艦ロサンゼルス級

- ◆8月18日 14:01原潜トビカ(L級)横須賀に入港。
- ◇8月22日 13:57原潜トビカ(L級)横須賀を出港。
- ◆8月23日 08:09原潜オマハ(L級)佐世保に入港。
- ◇同日 08:30原潜オマハ(L級)佐世保を出港。
- ◇8月24日 07:57原潜ウィリアム・H・ベイツ(S級)横須賀を出港。
- ◆同日 14:53原潜オマハ(L級)佐世保に入港。
- ◇8月29日 10:05原潜オマハ(L級)佐世保を出港。
- ◆9月1日 13:49原潜シカゴ(L級)横須賀に入港。
- ◆9月12日 16:00原潜トートグ(P級)佐世保に入港。
- ◇同日 16:22原潜トートグ(P級)佐世保を出港。
- ◇9月14日 13:58原潜シカゴ(L級)横須賀を出港。

●1992年1月1日から9月15日の各地への原子力艦入港回数

横須賀	14回(うち原潜14回)
佐世保	10回(うち原潜10回)
ホワイトビーチ	4回(うち原潜4回)

が続いているのだ。

加害の歴史語る遺構

しかし、そんな心情のかたわら、私達は「92ピースウィーク in Nagasaki」を取り組んできた。このピースウィークは毎年八月一日から九日間で取組んでいるもので今年が六回目になる。長崎の小さな市民団体、個人が寄り添って、それぞれが抱える課題をテーマ(三菱の兵器生産、原発問題、教育問題、被爆体験継承など)に、表現の方法は講演会やシンポジウム、コンサートなどさまざまな形態で問題提起していくもので、今年は一十の企画を実施した。

そのうち、長崎が抱えている課題で、自衛隊の海外派遣の問題を考えていく上にも抜きに出来ない二つのことを紹介し、この問題提起に代えたい。

そのひとつは、長崎市平和公園で出土した被爆遺構の保存問題である。今年一月、長崎

長崎の課題 四十七年の歳月を越えて

「被爆遺構」と「金裁判」

ピースバス長崎
川原重信

五年一月から終戦まで三菱長崎造船所で強制労働を強いられて被爆した。裁判での請求趣旨は、未払い賃金の支払いと強制運行に対する慰謝料である。すでに、日韓基本条約およびそれに基づく国内法によってこれらの請求権は否定されてしまっているが、この裁判の目的は条約と法律の解釈論にあるのではなく、真つ向から日本政府と三菱重工の戦争責任と戦後責任を問うことにある。現在長崎では裁判支援の組織作りと支援活動を全国に呼び掛けている。

PKO協力法に対する「市民の関心が薄い」

というマスコミ関係者の分析は当を得ているのだろう。それは、戦後四十七年を経過して、戦争の本質、軍隊の本質が見えにくくなってしまっていることと表裏の関係にあるのではないだろうか。

被爆遺構保存問題と金裁判問題はその本質を四十七年の歳月を越えて現在の問題として日本の全ての人に問いかけるものだと思う。自衛隊のカンボジア派遣とブルトニウム大量保有の状況が目前に迫った今、時間的な余裕はほとんど無いが、原点を今一度見直して行動提起を起す時ではないだろうか。(八月記)

市は平和公園の地下駐車場建設に着手したが、ここは被爆当時長崎刑務所浦上支所が建っていて、その基礎部分が出土したのだ。長崎の被爆遺構はほとんど残っておらず、この遺構はたとえ基礎の部分といえども最後の大型遺構であることはまちがいない。私達は本島市長に対しその保存を求めていった。遺構は被爆者がなくなった後も被爆の現実を後世に伝え残すという意味ばかりでなく、ここで爆死した八七名の拘留者のうち少なくとも四五名は朝鮮、中国の人達だったという事実があり、過去の侵略戦争の加害責任をも証明するものであるという意味でも、この保存が重要だと判断したのだ。

朝鮮人被爆者の訴え

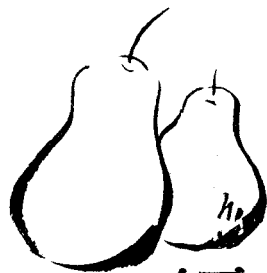
その二つ目は七月三十一日長崎地方裁判所に三菱重工と日本政府を相手どって、提訴した在被爆者・金順吉さんの裁判の問題である。金さんは、二十才の時徴用を受け一九四

ベラウ 踏み止どまった 非核憲法

「改憲国民投票」は
延期に

住民投票で七五%以上をえない限り一切の核を拒否することが明記されたベラウ(パラオ)の非核憲法。エピソード大統領は92年4月、その骨抜きを狙った改憲投票実施のための法案を議会に提出、また大統領令をも発令して七月十三日投票を強行しようとした(トマ喰い虫-No69で既報)

改憲反対派が多数を占める議会(上院)はこれに対し、大統領令の撤回と来年はじめまでの投票延期決議を採択した。加えて住民五十七人による投票差止め訴訟があり、七月九日の公判で、大統領令で立法行為を行うことはできない、大統領には議会の承認なしに投票日を決める権限はない、との判決が出された。あくまで「延期」のかたちではあるが、とりあえずベラウの憲法記念日(七月九日)は守られた。



編集室

から

♥「キャッチピース」改題第二号をおとどけます。「トマ喰い虫」が長かったせいか、題字をふくめて装丁が「仮」のままのせいか、なんだかよその家に居候しているような居心地の悪さを少し感じています。それでも今号では各地からの便りがたくさん寄せられ、とてもうれしく思いながらの編集でした。

♥さて、前号で予告したとおり、新しい「キャッチピース」の編集方針についてです。改題にあたって編集部では次の様に話し合いました。(1) 現状を事実にもとづいて、平和運動のホットな視点から分析し、わかりやすい言葉で伝える。(2) 「軍事問題」の敷居を低く、間口を広くし、平和運動に関心を持ち、運動に参加する人々をもっと多くしていくような紙面づくりを心掛ける。(3) 事実関係は正確を期し、通説をなぞったり、それにこだわるのでないユニークな視点を追及する。(4) 脱軍備ネットワーク・キャッチピースの原動力である各地の活気と元気を伝える。(5) 人と人、運動と運動、地域と地域

の出会い(ネットワークキング)の場を提供する。(6) 国際的視野を重視する。そして

(7) 紙面の体裁はポップ感覚で。

♥まあこんなふうには書いてみたものの、素人集団の、しかも仕事や地域の運動でかけずりまわりながらの編集。どこまで初心貫徹できますことやら心もとないかぎり。読者のみなさんのご協力、苦言、ご批判を期待しながら、よたよたとやってみます。今後もうぞよろしく。原稿書いてください、とお願ひしたら、笑って引き受けてくださいね。

♥というわけで、いつになく長い、しかもまじめな編集後記を書いて(た)は疲れてしまった。明日の日曜日は子供の運動会のあとヨコスカのデモに。オプライエンの入港も近い。国際非核自治体会議(今号の記事を書いているのは私目です)も、もうすぐだ。ふっとためいきをつけて、今日はおしまい。(た)

♥すべての自治体が非核宣言したら、世の中から全ての核がなくなるはずですよ。ヨコハマでの国際非核自治体会議まであと一ヶ月。私期待しているんですけど。NGO自主企画の準備にせつせと励んでいます。ところで、カンボジアに自衛隊。カンボジアに報道陣三〇〇人。カンボジアに市民調査団。カンボジアの人々の食べるものがなくなってしまうのかしら…なんてことが気になってし

まう今日この頃です。

♥「トマ喰い虫」あらため「キャッチピース」となつてすでに2号目。しかし、四流バンドマン(ま)には成長のアトは見られないようである。あいかわらず多摩川の河原でラッパを抱えてジコカンケツすることを主たる業務としているのである。今日、PKO部隊がカンボジアに降りたたったという。制服を着た顔、顔。あの人たちも歌を歌うことがあるだろうに。(ま)

♥会費、カンパの送金ありがとうございます。会計報告は次号でまとめていたします。(た)

月刊キャッチピース

(月刊トマ喰い虫改題)

No. 2 (通巻81号)

発行●脱軍備ネットワーク・キャッチピース

発行所●〒223 横浜市港北区箕輪町
3-3-1

☎045(563)5101

FAX 045(563)9907

郵便振替●東京6-136148「キャッチピース」

編集●キャッチピース編集部

定価●100円(通信会員年間3000円)